

1

解答解説のページへ

次の各問いに答えよ。

- (1) 10 進法で表された数 6.75 を 2 進法で表せ。また、この数と 2 進法で表された数 101.0101 との積として与えられる数を 2 進法および 4 進法で表せ。
- (2) $\triangle OAB$ において $OA = 3$, $OB = 2$, $\angle AOB = 60^\circ$ とする。 $\triangle OAB$ の垂心を H とするとき、 \overrightarrow{OH} を \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} を用いて表せ。

2

[解答解説のページへ](#)

定積分 $\int_{-1}^1 \left| x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{2} \right| dx$ を求めよ。

3

解答解説のページへ

n を 2 以上の整数とする。1 から n までの番号が付いた n 個の箱があり、それぞれの箱には赤玉と白玉が 1 個ずつ入っている。このとき操作(*)を $k=1, \dots, n-1$ に対して、 k が小さい方から順に 1 回ずつ行う。

(*) 番号 k の箱から玉を 1 個取り出し、番号 $k+1$ の箱に入れてよくかきまぜる。一連の操作がすべて終了した後、番号 n の箱から玉を 1 個取り出し、番号 1 の箱に入れる。このとき番号 1 の箱に赤玉と白玉が 1 個ずつ入っている確率を求めよ。

4

解答解説のページへ

空間の 8 点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 0, 0)$, $B(1, 2, 0)$, $C(0, 2, 0)$, $D(0, 0, 3)$, $E(1, 0, 3)$, $F(1, 2, 3)$, $G(0, 2, 3)$ を頂点とする直方体 $OABC-DEFG$ を考える。点 O , 点 F , 辺 AE 上の点 P , および辺 CG 上の点 Q の 4 点が同一平面上にあるとする。このとき, 四角形 $OPFQ$ の面積 S を最小にするような点 P および点 Q の座標を求めよ。また, そのときの S の値を求めよ。

5

[解答解説のページへ](#)

p が素数ならば $p^4 + 14$ は素数でないことを示せ。

1

問題のページへ

(1) $6 = 1 \cdot 2^2 + 1 \cdot 2^1 + 0 = 110_{(2)}$, $0.75 = 1 \cdot 2^{-1} + 1 \cdot 2^{-2} = 0.11_{(2)}$ より,

$$6.75 = 110.11_{(2)}$$

右の筆算より,

$$110.11_{(2)} \times 101.0101_{(2)} = 100011.110111_{(2)}$$

また, $100011_{(2)} = 1 \cdot 2^5 + 1 \cdot 2^1 + 1$ から,

$$1 \cdot 2^5 + 1 \cdot 2^1 + 1 = 2 \cdot 2^4 + 3 = 2 \cdot 4^2 + 3 = 203_{(4)}$$

$0.110111_{(2)} = 1 \cdot 2^{-1} + 1 \cdot 2^{-2} + 1 \cdot 2^{-4} + 1 \cdot 2^{-5} + 1 \cdot 2^{-6}$ から,

$$\begin{aligned} 1 \cdot 2^{-1} + 1 \cdot 2^{-2} + 1 \cdot 2^{-4} + 1 \cdot 2^{-5} + 1 \cdot 2^{-6} &= 3 \cdot 2^{-2} + 1 \cdot 2^{-4} + 3 \cdot 2^{-6} \\ &= 3 \cdot 4^{-1} + 1 \cdot 4^{-2} + 3 \cdot 4^{-3} = 0.313_{(4)} \end{aligned}$$

したがって, $100011.110111_{(2)} = 203.313_{(4)}$ である。

101.0101
× 110.11

1010101
1010101
1010101
1010101

100011.110111

(2) $OA = 3$, $OB = 2$, $\angle AOB = 60^\circ$ である $\triangle OAB$ の垂心 H

に対して, $\overrightarrow{OH} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ とおくと,

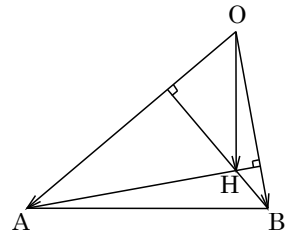
$$\overrightarrow{AH} = (s-1)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}, \quad \overrightarrow{BH} = s\overrightarrow{OA} + (t-1)\overrightarrow{OB}$$

ここで, $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 3 \cdot 2 \cdot \cos 60^\circ = 3$ に注意して,

$$\overrightarrow{AH} \cdot \overrightarrow{OB} = 3(s-1) + 4t = 0, \quad 3s + 4t = 3 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\overrightarrow{BH} \cdot \overrightarrow{OA} = 9s + 3(t-1) = 0, \quad 3s + t = 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①②より, $t = \frac{2}{3}$, $s = \frac{1}{9}$ となるので, $\overrightarrow{OH} = \frac{1}{9}\overrightarrow{OA} + \frac{2}{3}\overrightarrow{OB}$ である。



[解説]

(1)は記数法についての計算問題, (2)は平面ベクトルの図形への応用題で, ともに基本事項の確認レベルです。なお, (2)は直角三角形に着目する方法もあります。

2

問題のページへ

$I = \int_{-1}^1 \left| x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{2} \right| dx$ とおくと, $x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{2} = \left(x + \frac{1}{2}\right)(x - 1)$ より,

$$\begin{aligned} I &= \int_{-1}^{-\frac{1}{2}} \left(x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{2}\right) dx + \int_{-\frac{1}{2}}^1 -\left(x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{2}\right) dx \\ &= \left[\frac{x^3}{3} - \frac{x^2}{4} - \frac{x}{2} \right]_{-1}^{-\frac{1}{2}} - \left[\frac{x^3}{3} - \frac{x^2}{4} - \frac{x}{2} \right]_{-\frac{1}{2}}^1 \\ &= \frac{1}{3} \left(-\frac{1}{8} + 1\right) - \frac{1}{4} \left(\frac{1}{4} - 1\right) - \frac{1}{2} \left(-\frac{1}{2} + 1\right) - \frac{1}{3} \left(1 + \frac{1}{8}\right) + \frac{1}{4} \left(1 - \frac{1}{4}\right) + \frac{1}{2} \left(1 + \frac{1}{2}\right) \\ &= -\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{4} + \frac{1}{4} \cdot \frac{3}{2} + \frac{1}{2} \cdot 1 = -\frac{1}{12} + \frac{3}{8} + \frac{1}{2} = \frac{19}{24} \end{aligned}$$

[解説]

定積分の計算問題です。取り立てて工夫もせず、普通に計算しました。

3

問題のページへ

操作(*)を行い、 $n \geq 3$ のとき、箱 $k (2 \leq k \leq n-1)$ に 3 個の玉が入っていると、赤玉 1 個、白玉 2 個入っている確率を p_k 、赤玉 2 個、白玉 1 個入っている確率を q_k とおくと、

$$p_{k+1} = \frac{2}{3}p_k + \frac{1}{3}q_k, \quad q_{k+1} = \frac{1}{3}p_k + \frac{2}{3}q_k$$

すると、 $p_{k+1} + q_{k+1} = p_k + q_k$ より、

$$p_k + q_k = p_2 + q_2 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、 $p_{k+1} - q_{k+1} = \frac{1}{3}(p_k - q_k)$ より、 $p_k - q_k = (p_2 - q_2)\left(\frac{1}{3}\right)^{k-2} \cdots \cdots \textcircled{2}$

さて、箱 1 から取り出して箱 2 に入れた玉の色で場合分けをすると、

(i) 箱 1 から赤玉を取り出して箱 2 に入れたとき

まず、箱 1 で赤玉を選ぶ確率が $\frac{1}{2}$ で、このとき $p_2 = 0$ 、 $q_2 = \frac{1}{2}$ となり、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より、

$$p_n + q_n = \frac{1}{2}, \quad p_n - q_n = -\frac{1}{2}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}$$

これより、 $p_n = \frac{1}{4}\left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\}$ 、 $q_n = \frac{1}{4}\left\{1 + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\}$ となる。

そして、箱 n から赤玉を取り出し箱 1 に入れると、箱 1 は赤玉と白玉 1 個ずつ入っている状態になり、その確率は、

$$\frac{1}{3}p_n + \frac{2}{3}q_n = \frac{1}{12}\left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\} + \frac{1}{6}\left\{1 + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\} = \frac{1}{4} + \frac{1}{12}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}$$

(ii) 箱 1 から白玉を取り出して箱 2 に入れたとき

まず、箱 1 で白玉を選ぶ確率が $\frac{1}{2}$ で、このとき $p_2 = \frac{1}{2}$ 、 $q_2 = 0$ となり、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より、

$$p_n + q_n = \frac{1}{2}, \quad p_n - q_n = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}$$

これより、 $p_n = \frac{1}{4}\left\{1 + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\}$ 、 $q_n = \frac{1}{4}\left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\}$ となる。

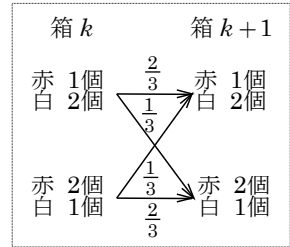
そして、箱 n から白玉を取り出し箱 1 に入れると、箱 1 は赤玉と白玉 1 個ずつ入っている状態になり、その確率は、

$$\frac{2}{3}p_n + \frac{1}{3}q_n = \frac{1}{6}\left\{1 + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\} + \frac{1}{12}\left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}\right\} = \frac{1}{4} + \frac{1}{12}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2}$$

(i)(ii)より、箱 1 に赤玉と白玉 1 個ずつ入っている確率は、

$$\frac{1}{4} + \frac{1}{12}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{12}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2} = \frac{1}{2} + \frac{1}{6}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-2} = \frac{1}{2} + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

なお、 $\textcircled{3}$ は $n = 2$ のときも成立している。



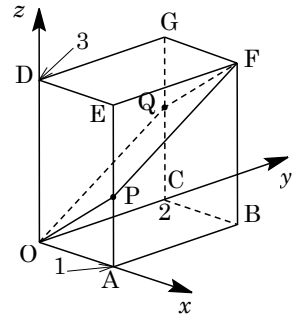
[解説]

確率と漸化式の問題です。解答例では箱の中の状態に着目して漸化式を立てました。

4

問題のページへ

右図の直方体 $OABC-DEFG$ に対し、辺 AE 上に点 $P(1, 0, p)$ 、辺 CG 上に点 $Q(0, 2, q)$ をとる。ただし、 $0 \leq p \leq 3, 0 \leq q \leq 3$ とする。



このとき、4点 O, P, F, Q が同一平面上にあることより、 s, t を実数として、 $\overrightarrow{OF} = s\overrightarrow{OP} + t\overrightarrow{OQ}$ と表せ、

$$(1, 2, 3) = s(1, 0, p) + t(0, 2, q)$$

すると、 $1 = s, 2 = 2t, 3 = sp + tq$ から、

$$s = t = 1, p + q = 3 \cdots \cdots (*)$$

よって、 $\overrightarrow{OF} = \overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$ より、四角形 $OPFQ$ は平行四辺形となり、その面積 S は、

$$\begin{aligned} S &= \sqrt{|\overrightarrow{OP}|^2 |\overrightarrow{OQ}|^2 - (\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ})^2} = \sqrt{(1+p^2)(4+q^2) - (pq)^2} \\ &= \sqrt{4p^2 + q^2 + 4} \end{aligned}$$

ここで、(*)から、 $q = 3 - p$ ($0 \leq p \leq 3$) なので、

$$S = \sqrt{4p^2 + (3-p)^2 + 4} = \sqrt{5p^2 - 6p + 13} = \sqrt{5\left(p - \frac{3}{5}\right)^2 + \frac{56}{5}}$$

すると、 $p = \frac{3}{5}$ ($q = \frac{12}{5}$) のとき、 S は最小値 $\sqrt{\frac{56}{5}} = \frac{2}{5}\sqrt{70}$ をとり、このとき、

$$P\left(1, 0, \frac{3}{5}\right), Q\left(0, 2, \frac{12}{5}\right)$$

[解説]

空間ベクトルの応用問題です。座標を設定して処理を行いましたが、ややこしい計算は現れませんでした。

5

問題のページへ

まず、素数 p について、 $p = 2$ のとき、 $p \geq 3$ のときで場合分けをする。

(i) $p = 2$ のとき

このとき、 $p^4 + 14 = 30 = 2 \cdot 3 \cdot 5$ となり、 $p^4 + 14$ は素数でない。

(ii) $p \geq 3$ のとき

$p = 3$ では、 $p^4 + 14 = 95 = 5 \cdot 19$ となり、 $p^4 + 14$ は素数でない。

$p \neq 3$ では、以下 mod 3 で記すと、 $p \equiv 1$ または $p \equiv 2$ で、 $p < p^4 + 14$ に注意すると、

・ $p \equiv 1$ のとき $p^4 + 14 \equiv 1^4 + 14 \equiv 15 \equiv 0$ より、 $p^4 + 14$ は素数でない。

・ $p \equiv 2$ のとき $p^4 + 14 \equiv 2^4 + 14 \equiv 30 \equiv 0$ より、 $p^4 + 14$ は素数でない。

(i)(ii)より、 p が素数ならば $p^4 + 14$ は素数でない。

[解説]

京大らしい整数問題です。ただ、2018年に同様な考え方をする類題があり、その経験がものを言います。